

「命のトランジットビザ」

7月17日

～世界平和への貢献について考えよう～



【教材あらすじ】

第2次世界大戦当時、たくさんのユダヤ人を救うため、自分と家族の安全を冒し、外務省が認めないままビザを発給した外交官・杉原千畝を描く。

ナチスの迫害から逃れるため、必死に日本のトランジットビザ発給を訴えるユダヤ人。しかし、日本の外務省は許可をしない。発給がなければたくさんのユダヤ人が犠牲になることは明らか。杉原は、外務省が認めないまま、大量のビザを不眠不休で書き続ける。国の指示に背く自身と家族に迫る危険と恐怖の間で書き続け、最後に出国の列車からも手渡したそのビザにより、数千人のユダヤ人の命が救われた。

○授業を振り返って。

- ①杉原さんから学んだこと・感じたこと。
- ②世界平和につながるためにはどんな気持ちが必要だろうか。

①自分が正しいと思ったことは、何があってもやること。そして、最後までやり抜くことが大切だと思った。

②自分で行動を起こすことが大切だと思った。国連でマララさんが教育の大切さをスピーチで訴えられたのも、彼女自身が勇気をもって行動を起こしたから、アメリカの黒人の方もたくさんの人々が「差別反対！」と自ら抗議デモを起こしたから。勇気をもつことが、世界平和に尽くすために重要なことだと思った。

①その役割（立場）にとって大切なこともするが、一人の人間として大切なことをする必要がある。上の人間に言われたことばかりをしてはいけない。長い目で見ると。

②自分が困っている人を助けようという気持ち、困っている人がいたら助ける。

①ユダヤ人を助けてあげたいと思っていて優しいなと思いました。

②杉原さんのように、目の前にいる困っている人を助けるやさしさが大切だと思います。

①②自分や家族の危険を理解した上で、たくさんのユダヤ人の命を守っていて、違う国の人々だけど、苦しいときに勇気を出して助け合っていくことが、世界平和にもつながるのかなと思いました。

①自分より相手のことを優先することが大切だと思った。ビザを発給して日本に帰った後、そのことを言わずにいたところがかっこいい。

②相手の気持ちを考える。

①自分の地位や仕事よりも人の命の方を大切にしている、優しく勇気のある人だと思った。

②世界の文化の違いを理解し、互いに認め合って生きていく優しい気持ち。

①見ず知らずの人の命を助けるためにビザを必死に書き続けたことはとても他人に対する思いが強いと思った。

②正解平和につながるためには、まずは、隣に居る人と平等に接し、思いやりをもっていることが大切だと思った。

①自分のことだけを考えず、何が正しくどうすればもっと良い結果が出せるかを考え、

次に生かしていけたらなと思いました。

②誰かが困っていたら、勇気を出して助け合いをしていけたら世界平和につながると
思いました。

①自分の職。命を懸けて人々を守るための行動を起こせるのがすごい覚悟がある人だ
と思った。

②他人を思いやる気持ち、偏見をもったり差別をしないこと。

②日頃から困っている人がいたら声をかけてあげたり、助けてあげたりすることが平和
に少しでもつながると思った。

①職など失ってもおかしくないのに、ユダヤ人のビザを発給した。勇敢な気持ちが伝わ
った。困っている人はなるべく助けてあげることが学んだ。

②杉原さんの「多くの人を救いたい気持ち」だと思います。それがなければ、たくさん
の命が失われていたはずです。この杉原さんの話から学んだことや優しい心をもてば、
誰でも仲良く接し合うことができると思います。

①自分の国から許可が下りなくても、目の前にビザを求める人々がいて、その人たちに
助けたいという強い意志（気持ち）。家族が危険にさらされてしまうかもしれないけど、
それに（ビザの発給）に深くうなずいてくれた妻も強い人だと思った。

②目の前に困っている人、どんな小さなことでも自分から少しの手助けができたらい
なと思った。